

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

配 慮 項 目			評価点	重み係数	内 訳					
■ 1. 「地球温暖化対策」の推進										
1.1 建物の熱負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級3に相当しています。	3.0	0.43	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	3	外皮性能
	3.0	0.08								
	3.0	0.49	LRI	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制				
小計	3.0	0.36								
1.2 自然エネルギーの利用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 採光・通風に配慮した計画にしています。	3.0	0.50	LRI	エネルギー	2	自然エネルギー利用	2.1	自然エネルギーの直接利用		
	3.0	0.50	LRI	エネルギー	2	自然エネルギー利用	2.2	自然エネルギーの変換利用		
小計	3.0	0.09								
1.3 設備システムの高効率化										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 ガス給湯器を採用します。高効率の照明器具を採用します。	4.0	1.00	LRI	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計	4.0	0.18								
1.4 設備システムの効率的運用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 照明を効率的に運用できるよう計画しています。	3.0	0.00	LRI	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング		
	3.0	0.00	LRI	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制		
小計	0.0	0.00								
1.5 資源・マテリアル対策										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 主要水栓は節水タイプの水栓を採用します。	4.0	0.08	LRI	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	3.0	0.12	LRI	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.00	LRI	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利用システム導入の有無
	2.0	0.06	LRI	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.19	LRI	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.16	LRI	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	断体材料におけるリサイクル材の使用		
	3.0	0.16	LRI	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	非断体材料におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.04	LRI	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	3.0	0.19	LRI	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
	小計	3.0	0.26							
1.6 ライフサイクルCO2排出率										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 可能な限り、CO2の排出を抑制します。	3.2	1.00	LRI	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計	3.2	0.11								
1. 「地球温暖化対策」の推進の評価										
	3.2	0.72								
■ 2. 「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1 温熱環境の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地の道路側に緑地を多く設けています。	2.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出				
	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	3.0	0.27	LRI	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	2.5	0.96								
2.2 交通負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車、駐輪スペースを確保しています。	3.0	1.00	LRI	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	3.0	0.04								
2. 「ヒートアイランド対策」の推進の評価										
	2.5	0.15								
■ 3. 「長寿命化対策」の推進										
3.1 耐用性の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 内装仕上げ材は、耐久性があり、メンテナンスの容易な材料を採用します。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	1	耐震性
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	2	免震・制振性能
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要期間
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要期間
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要期間
	3.0	0.06	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要期間
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要期間
小計	3.0	0.47								
3.2 設備の更新性										
(コメント) ※設計の計画上位段に配慮した事項を記載してください。 可能な限り構造部材をいためることなく、設備の修繕、更新ができるよう、計画しています。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	2.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給水配管の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	遠隔配線の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペース
小計	2.8	0.53								
3. 「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)										
	2.9	0.13								
■ 重点項目の総平均(上記3項目)										
	3.1									